

日本の大学とスペイン・ポルトガル・ラテンアメリカの大学との留学交流

2018年3月

桜井 悌司(ラテンアメリカ協会理事)

日本でもここ十数年来、「グローバル人材」という言葉が急速かつ頻繁に使用されるようになった。「グローバル人材」を育成する上で最も重要な機関は大学であろう。現時点において日本の大学が、スペイン・ポルトガル・ラテンアメリカの大学とどの程度の留学交流を持っているかを調べてみた。具体的には、日本の119大学のホームページを調査し、掲載したものである。実際は、150程度の大学のホームページをチェックしたが、対象地域の大学との交流が無いもの、ホームページで関連情報が見つからなかったものは割愛した。その数字は下記の通りである。国別のリストは添付資料を参照のこと。また最後の留意点も参照して欲しい。

日本の大学のスペイン、ポルトガル、ラテンアメリカとの留学交流データ

2018年3月

国名	日本の大学数	相手国の大学等数	案件総数	日本の大学当たりの平均案件数
スペイン	84	71	260	3.1
ポルトガル	25	11	36	1.4
イベリア半島国合計	109	82	296	2.7
メキシコ	65	44	148	2.3
ブラジル	57	43	116	2.0
ペルー	25	23	36	1.4
チリ	21	12	24	1.1
アルゼンチン	20	15	31	1.6
コロンビア	12	11	17	1.4
エクアドル	8	6	10	1.3
コスタリカ	7	3	7	1.0
グアテマラ	4	5	7	1.8
ウルグアイ	4	2	4	1.0
パラグアイ	4	4	6	1.5
キューバ	4	2	4	1.0
ニカラグア	3	2	3	1.0
ジャマイカ	3	2	3	1.0

ボリビア	3	2	3	1.0
ベネズエラ	2	2	2	1.0
ホンジュラス	2	1	2	1.0
パナマ	2	1	2	1.0
ドミニカ共和国	1	1	1	1.0
エルサルバドル	1	2	2	1.0
ハイチ	1	1	1	1.0
ラテンアメリカ合計	242	184	429	1.7
総合計	351	266	725	2.1

1. 一般的な特徴

いずれの大学も「グローバル人材」の育成とか「国際人」の養成等について声を大にして訴えている。また留学を前面に出している大学も多い。しかし、留学先を見ると、圧倒的にアジア、それも中国、韓国、台湾、ASEAN諸国(東南アジア諸国連合)、米国、英国、オーストラリア等のアングロサクソン国が多い。英語以外の外国語となると中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語を重視している大学がほとんどである。英国のブリテイッシュ・カウンシルは、英語以外に最も重要な言語としてスペイン語を挙げているが、スペイン語圏、ポルトガル語圏への留学は、他の主要言語と比較するとまだまだと言えよう。

それでも粘り強くホームページで調べていくと、どこまで活発に交流しているかは別にして、結構な数の大学が「スペイン・ポルトガル・ラテンアメリカ地域」(以下、地域と呼ぶ)の大学との交流を進めている。調査した日本の119大学の内訳をみると、東京の大学が43大学、地方の大学が76大学となっている。東京には大学が多く存在し、競争も激しいところから、「地域」の大学との交流も多くなるものとみられる。外国語大学は別にして、地方の大学も東京から離れれば離れるほど、「地域」の大学との交流が少なくなるようだ。

国別の人気ランキングをみてみよう。第1位が、スペインで、日本の大学数が84、スペインの大学数、71、合計交流案件数は、260件に達する。第2位はメキシコで、日本の大学数が、65、メキシコの大学数、44、合計交流案件数は、148件、第3位は、ブラジルで、日本の大学数が、57、ブラジルの大学数、43、合計交流案件数、116件となっている。以下、第4位、ポルトガル、第5位、ペルー、第6位、チリ、第7位、アルゼンチン、第8位、コロンビア、第9位、エクアドル、第10位、コスタリカと続く。

次に留学交流の締結の時期を調べてみよう。大学のホームページには、交流協定の締結年を記載している大学と記載していない大学があるので、カバー率はそれほど高くはないが、締結年

の大まかな推移を理解するうえで、下記の表に基づき、紹介しよう。今回の調査で判明したことは、1990年までに締結された協定は、全体の案件数246件のうち、わずか8件で、3%を占めるにすぎない。1991年から2000年までの締結数は、32件で、13%を占め、2001年から2010年までは、59件で24%を占める。残りの147件は、すべて2011年以降で、全体の60%に達する。1980年代～90年代に大学生の国際化のための国際人材育成が叫ばれていたにも関わらず、スペイン語やポルトガル語を話す「地域」には、ほとんど及んでいなかったことが理解できる。大学側の立場からは、アジアや英語圏の欧米諸国には相当力を入れたので、スペイン語・ポルトガル語圏まで手が回らなかったということになろう。全体の60%が2011年以降と比較的最近であることは驚きであるが、グローバル人材の育成を叫ばないと大学間競争に勝ち抜けないことも背景にあり、ようやく重い腰を上げたとも言えよう。今から振り返ると、2014年度に開始された文部科学省による「スーパーグローバル大学創成支援事業」によって、①世界大学ランキングトップ100を目指す力のある大学「タイプ A トップ型」の13大学と ②我が国の社会のグローバル化を牽引する大学「タイプ B グローバル化牽引型」の24大学が選ばれた。また2015年度には、文部科学省による「大学の世界展開力強化事業」によって8つの大学が補助金の対象となった。おそらくこの2つのプロジェクトが実施されなければ、未だにラテンアメリカは注目されなかったものと思われる。

留学交流協定の締結年 ** 締結年の明記がある協定

国名	1990年以前	1991年～ 2000年	2001年～ 2010年	2011年～	合計 **
スペイン	2件(2%)	10件(11%)	17件(19%)	59件(67%)	88件
ポルトガル	0件(0%)	1件(8%)	2件(15%)	10件(77%)	13件
メキシコ	1件(2%)	5件(11%)	13件(29%)	26件(58%)	45件
ブラジル	4件(8%)	9件(18%)	13件(26%)	24件(48%)	50件
ペルー	0件(0%)	1件(7%)	5件(33%)	9件(60%)	15件
アルゼンチン	1件(14%)	2件(29%)	1件(14%)	3件(43%)	7件
チリ	0件(0%)	4件(29%)	3件(21%)	7件(50%)	14件
コロンビア	0件(0%)	0件(0%)	1件(17%)	5件(83%)	6件
エクアドル	0件(0%)	0件(0%)	1件(50%)	1件(50%)	2件
コスタリカ	0件(0%)	0件(0%)	3件(50%)	3件(50%)	6件
合計**	8件(3%)	32件(13%)	59件(24%)	147件(60%)	246件

日本の大学当たりの案件数を見ると、スペインが3.1件、メキシコが2.3件、ブラジルが2.0件となっており、人気のある国での案件数が多いことがわかる。案件の少ない国は限りなく

1. 0に近くなる。以下、国別の状況について、紹介する。

2) スペインとの留学交流

スペインの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、84校で、スペインの大学数は、71校で、案件数は、260件である。

「スペインの大学との提携年」

スペインの大学との提携年をみると、2000年以前が10件(11%)、2001年～2010年の間が、21件(22%)、2011年以降の締結は、62件(67%)となっている。

「留学交流に熱心な日本の大学、スペインの大学」

スペインの大学との交流協定が多い日本の大学は、下記の通りであるが、1位の早稲田大学(12校)、2位の上智大学、関西外国語大学の各11大学、4位の慶應義塾大学、清泉女子大学の各9校、6位の東京外国語大学、立命館大学の各8校、8位の東北大学、神奈川大学、南山大学の各7校と続く。外国語大学系が多いが、早稲田大学や慶應義塾大学、立命館大学も力が入っている。一方、日本の大学が関心の強いスペインの大学は、1位がサラマンカ大学で23校と圧倒的な協定数である。続いて、バルセロナ自治大学の18校、アルカラ大学の17校、サンティアゴ・デ・コンポステラ大学の13校、マラガ大学の12校、アリカンテ大学の11校、グラナダ大学とマドリード自治大学の各10校となっている。ここでも名門大学に集中していることが理解できる。

順位	スペインの大学と留学交流の多い日本の大学	大学数	順位	日本の大学と留学交流の多いスペインの大学	大学数
1位	早稲田大学	12校	1位	サラマンカ大学	23校
2位	上智大学	11校	2位	バルセロナ自治大学	18校
2位	関西外国語大学	11校	3位	アルカラ大学	17校
4位	慶應義塾大学	9校	4位	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	13校
4位	清泉女子大学	9校	5位	マラガ大学	12校
6位	東京外国語大学	8校	6位	アリカンテ大学	11校
6位	立命館大学	8校	7位	グラナダ大学	10校
8位	東北大学	7校	7位	マドリード自治大学	10校
8位	神奈川大学	7校	9位	バルセロナ大学	9校
8位	南山大学	7校	10位	バレンシア大学	8校
11位	北海道大学	6校	11位	セビリャ大学	7校

11位	京都外国語大学	6校	12位	サラゴサ大学	6校
13位	秋田大学	5校	12位	ジャウメ1世大学	6校
13位	明治大学	5校	14位	バリアドリード大学	5校
13位	立教大学	5校	14位	ナバラ大学	5校
13位	千葉大学	5校			
13位	愛知県立大学	5校			
13位	近畿大学	5校			

3) ポルトガルとの留学交流

ポルトガルの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、25校で、ポルトガルの大学数は、11校、案件数は、36件である。提携数の多い大学は、リスボン大学が9件、ポルト大学が8件、コインブラ大学が6件、ミーニョ大学が3件、アルガルヴェ大学とフェルナンド・ペッソア大学が各2件となっている。ここでも名門大学への集中がみられる。締結年を見ると、2000年の締結が1件、2001年から10年が2件、残りの10件は、すべて2011年以降となっている。ポルトガルとの提携は比較的最近と言える。

4) メキシコとの留学交流

メキシコの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、64校で、メキシコの大学数は、44校、案件数は、138件である。

「メキシコの大学との提携年」

締結年が判明している合計46件の内、2000年以前に締結されたのは、6件(13%)、2001年～2010年の間に、13件(28%)、2011年以降の締結は、27件(59%)となっている。この中には、文部科学省が、平成27年度(2015年度)に「大学の世界展開強化事業」に採択された8大学(筑波大学、千葉大学、東京農工大学、東京農業大学、電気通信大学、上智大学、南山大学、長岡技術科学大学がメキシコ関連の留学交流)の案件は入っていないので、実際は、2015年以降の提携が多くなる。

「留学交流に熱心な日本の大学、メキシコの大学」

日本の大学でメキシコとの交流に熱心な大学は、1位が、長岡技術科学大学で9校である。これは、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択されたのがその理由である。補助金がかットされた後のフォローアップがいかになされるかが注目に値されよう。以下2位の上智大学、千葉大学(大学の世界展開強化事業採択案件)の各7校、4位に、立命館大学、関西外国語大学

の各5校、6位には、4校で早稲田大学、神田外国語大学、神奈川大学、愛知県立大学、京都外国語大学、関西学院大学、広島大学の7大学が連ねる。

一方、日本の大学が提携を望むメキシコの大学は、1位がメキシコ国立自治大学(UNAM)、2位がモンテレイ工科大学の15校と名門大学である。以下、日本の自動車産業の集積のメッカになっている3位のグアナフアト大学、12校、4位のグアダラハラ大学、11校、5位のグアダラハラ自治大学、8校と続く。以下6位のモンテレイ大学、7位のエル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学とイペロアメリカーナ大学の各6校、9位のメキシコ国立工科大学、5校、10位のプエブラ州立荣誉大学、4校となっている。メキシコの大学との留学交流は、日本の自動車産業関連企業のメキシコへのラッシュと関連し、今後も増加するものと思われる。

順位	メキシコの大学と留学交流の多い日本の大学	大学数	順位	日本の大学と留学交流の多いメキシコの大学	大学数
1位	長岡技術科学大学	9校	1位	メキシコ国立自治大学 UNAM	18校
2位	上智大学	7校	2位	モンテレイ工科大学	15校
2位	千葉大学	7校	3位	グアナフアト大学	12校
4位	立命館大学	5校	4位	グアダラハラ大学	11校
4位	関西外国語大学	5校	5位	グアダラハラ自治大学	8校
6位	早稲田大学	4校	6位	モンテレイ大学	7校
6位	神田外国語大学	4校	7位	エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学	6校
6位	神奈川大学	4校	7位	イペロアメリカーナ大学	6校
6位	愛知県立大学	4校	9位	メキシコ国立工科大学	5校
6位	京都外国語大学	4校	10位	プエブラ州立荣誉大学	4校
6位	関西学院大学	4校			
6位	広島大学	4校			

5) ブラジルとの留学交流

ブラジルの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、57校で、ブラジルの大学数は、43校、案件数は、116件である。

「ブラジルの大学との提携年」

2000年以前に締結されたのが、11件(22%)、2001年～2010年の間の協定が、15件(30%)、2011年以降は、24件(48%)の締結となっている。締結年の明記のある件数は、合計50件である。この中には、文部科学省が、平成27年度(2015年度)に「大学の世界展開

強化事業」に採択された5大学(筑波大学、東京大学、東京農業大学、上智大学、南山大学がブラジル関連の留学交流)の案件は含まれていないので、実際は、2015年以降の提携が多くなる。

「留学交流に熱心な日本の大学、ブラジルの大学」

では、日本の大学で、ブラジルとの留学交流に熱心なところはどの大学であろうか？日本の大学でブラジルの大学3校以上の交流協定・提携を締結している大学は、上智大学、神戸大学、北海道大学、横浜国立大学、信州大学、名古屋大学、東京外国語大学、慶應義塾大学、明治大学、東京外国語大学、神田外国語大学、芝浦工業大学、京都外国語大学、関西大学、広島大学、九州大学の15大学である。一方、日本の大学が交流を望むブラジルの大学のランキングは、下表の通りであるが、日本の3大学以上の提携があるのは、サンパウロ大学が圧倒的で35校、以下、カンピーナス州立大学、8校、ブラジリア大学、7校、リオ・デ・ジャネイロ州立大学、5校、パラナ連邦大学、ロンドリーナ州立大学が各4校、パラナ連邦工科大学が3校となっている。日本の大学の有名大学好みも反映されていると同時に、サンパウロ州、パラナ州、ブラジリア、リオ・デ・ジャネイロ州に偏っていることが理解できる。

順位	ブラジルの大学と留学交流の多い日本の大学	大学数	順位	日本の大学と留学交流の多いブラジルの大学	大学数
1位	上智大学	5校	1位	サンパウロ大学	35校
1位	神戸大学	5校	2位	カンピーナス州立大学	8校
3位	北海道大学	4校	3位	ブラジリア大学	7校
3位	横浜国立大学	4校	4位	リオ・デ・ジャネイロ州立大学	5校
3位	信州大学	4校	5位	パラナ連邦大学	4校
3位	名古屋大学	4校	5位	ロンドリーナ州立大学	4校
3位	東京外国語大学	4校	7位	パラナ連邦工科大学	3校
7位	明治大学	3校	8位	ヴィソーザ大学	2校
7位	慶應義塾大学	3校	8位	リオ・グランデ・ド・スル州立大学	2校
7位	神田外国語大学	3校	8位	リオ・グランデ・ド・スル・カトリック大学	2校
7位	芝浦工業大学	3校	8位	サンパウロ・カトリック大学	2校
7位	京都外国語大学	3校	8位	リオ・デ・ジャネイロ連邦大学	2校
7位	関西大学	3校	8位	アマゾナス州立大学	2校
7位	広島大学	3校	8位	サンタ・カタリーナ連邦大学	2校
7位	九州大学	3校	8位	サン・カルロス連邦大学	2校
7位	南山大学		8位	パウリスタ大学	2校

6) ペルーとの留学交流

ペルーの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、25校で、ペルーの大学数は、10校、案件数は、36件である。提携校の多いペルーの大学は、ペルー・カトリック大学、10件、ラ・モリーナ国立農業大学、8件、国立サン・マルコス大学、5件、サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学、4件、カジェタノ・エレディア大学が2件と続いている。締結年を見ると、2000年以前が1件、2001年～10年が5件、2011年以降は9件となっている。

7) チリとの留学交流

チリの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、21校で、チリの大学数は、12校、案件数は、24件である。提携数が多いチリの大学は、第1位が、チリカトリック大学で9件、第2位が、チリ大学で4件、コンセプション大学、2件となっている。残りの大学は各1件である。神戸大学が国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会と締結しているのは興味深い。締結年を見ると、2000年以前が3件、2001年～10年が3件、2011年以降が4件となっている。

8) アルゼンチンとの留学交流

アルゼンチンの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、20校で、アルゼンチンの大学数は、15校、案件数は、31件である。提携数が多いアルゼンチンの大学は、国立ラ・プラタ大学が7件、サルバドル大学が5件、トルクアト・ディ・テラ大学が3件、ロサリオ大学、ベルグラノー大学、ブエノスアイレス大学、アルヘンティーナ・デ・エンプレサ大学が各2件となっている。締結年を見ると、2000年以前が3件、2008年が1件、2011年以降が3件となっている。アルゼンチンとの交流はかなり昔から行われていることがわかる。

9) コロンビアとの留学交流

コロンビアの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、12校で、コロンビアの大学数は11校、案件数は、17件である。内訳は東京の大学が4校、地方の大学が7校となっている。相手校として関心が高いのは、エアフィット大学とロスアンデス大学が各3校と、コロンビア国立大学、ハベリアーナ大学、ロサリオ大学、がそれぞれ2校と締結している。締結年は5校が2011年以降で、1校が2004年である。

10) エクアドルとの留学交流

エクアドルの大学との留学交流を行っている日本の大学数は、8大学で案件数は10件である。東京の大学は1校で、残りは関西の大学が5校、九州の大学が2校となっている。相手校は、太平洋大学が4校、エスピリト・サント大学が2校で残りは各1校である。

11) コスタリカとの留学交流

コスタリカの大学との留学交流を行っている日本の大学数は7大学で、東京の大学が3校、地方の大学が4校となっている。コスタリカの大学をみるとコスタリカ大学が3校、国連平和大学が3校と人気を二分している。判明できる締結年は、2001年から10年までに締結は2件、2011年以降は、3件と比較的最近のことである。

12) その他ラテンアメリカ・カリブ諸国との留学交流

その他日本の大学数が4校以下の締結先国は次のようになる。
グアテマラ、4校(7案件)、ウルグアイ4校(4案件)、パラグアイ4校(6案件)、キューバ4校(4案件)、ニカラグア3校(3案件)、ジャマイカ3校(3案件)、ボリビア3校(3案件)、ベネズエラ2校(2案件)、ホンジュラス2校(2案件)、パナマ2校(2案件)、ドミニカ共和国1校(1案件)、エルサルバドル1校(2案件)、ハイチ1校(1案件)となっている。全体で日本の大学25校が協定を持っているが、内訳は東京の大学が5校で残りの20校が地方の大学と興味のあるデータが出ている。

「レポートを読む上での留意点」

- 1) 前述のように119の大学のホームページを集計したが、チェックした大学数はおよそ150に上る。ホームページに掲載されていない大学および、「地域」の留学交流の無い大学は掲載されていない。
- 2) 大学によって、提携校、交流校、学術協定校、大学間交流、部局間交流等の言い方の違いがあり、極力網羅したつもりであるが、漏れた分も相当数に上るものと思われる。
- 3) 協定締結年を明記している大学とそうでない大学があるので、明記した大学のみデータをピックアップした。
- 4) 今回の調査は、提携関係の有無を調べるためであり、活発に交流が行われているかどうか、具体的にどのような交流がなされているかについては、調査の対象としていない。
- 5) 相手国の大学名も日本の大学によって呼び方が若干異なることもあった。極力統一

するように努めた。

- 6) 筆者の書き換え、書き写しミスもあると思われるので、間違いを見つけられた方は、是非ともご連絡いただきたい。また、この資料は、まだまだ不十分なところが残っている可能性もあり、ご覧いただき修正点があれば、遠慮なくご連絡いただきたい。
(teisakurai@gmail.com 桜井まで)
- 7) 日本の大学の所在地別に作成した集計原票を本レポートに添付した。

以 上